

# けんぽく農林ニュース

## ふくしまから はじめよう。 「食」と「ふるさと」新生運動ニュース

～県北地方の「食」と「ふるさと」新生運動に関する  
情報をお知らせします～



県北地方は東北有数の夏秋小ギク産地なんだよ！  
親株の茎を切り取って挿し芽することで、  
かわいい小ギクの苗になるんだ！



小ギクの親株(福島市)

### 目次

- ・ 肥育一貫経営で県内初！野内牧場がJGAP（家畜・畜産物）認証を取得しました！（安達農業普及所）・・・P 2
- ・ 「田んぼの学校」閉校式・収穫祭を行いました！（農村整備部）・・・P 3
- ・ 福島市農業後継者連絡協議会総会が開催されました！（農業振興普及部）・・・P 4
- ・ 福島市・川俣町農業士会総会が開催されました！（農業振興普及部）・・・P 4
- ・ 「未来につながる持続可能な農業推進コンクール」で「はねだ桃園」が受賞しました！（伊達農業普及所）・・・P 5
- ・ 「金谷川農作業受託組合」が設立されました！（農業振興普及部）・・・P 6
- ・ 県北地方防霜対策本部を設置しました！（農業振興普及部）・・・P 6
- ・ 県北地方鳥獣被害対策セミナーを開催しました！（農業振興普及部）・・・P 7
- ・ けんぽく6次化ミーティング会員募集中！（企画部）・・・P 7
- ・ ため池の決壊による災害の未然防止！～ため池廃止～（農村整備部）・・・P 8
- ・ パイプラインの中をカメラ調査！機能診断を実施しました！（農村整備部）・・・P 9
- ・ 「第2回伊達地域担い手担当者会議」を開催しました！（伊達農業普及所）・・・P 10
- ・ 山菜の出荷制限について、確認をお願いします！（森林林業部）・・・P 11



**肥育一貫経営で県内初！野内牧場が JGAP(家畜・畜産物) 認証を取得しました！**

大玉村の野内和幸さんが経営する野内牧場では、黒毛和種の子牛生産から肥育して肉用に出荷するまでを一貫して手がけています。生産される肉牛は「福島牛」として県内外で販売されています。

GAPに取り組むきっかけとして、野内さんは「GAPの話を聞いたとき、長年続けてきた経営を振り返り農場を適切に管理していく、いいきっかけとなると思った。震災以降、福島県の牛肉は厳しい状況にあるが、管理された工程で生産された畜産物であることをアピールしていきたい。」と話していました。

野内さんは令和2年7月に福島市で開催されたJGAP指導員研修を受講してGAPの考え方を学ぶとともに、農場管理の現状を振り返り、管理方法を定めていく作業に熱心に取り組まれてきました。関係機関とともに自己点検や、模擬審査の実施を経て、令和3年2月5日に審査を受け、一ヶ月後の3月5日に認証されました。

野内さんは取組を振り返り、「現状を確認し、目標を定めていく作業では今まで自分の経営で気づかなかった点も見直すことができた。全国の農畜産物でGAPの取組がすすんでおり、消費者にもGAPが理解されていくことで、福島牛の風評払拭につながればと思う。」と話しています。

(安達農業普及所)



認証取得記念！



牛舎にいる肉用牛



JA ふくしま未来、家畜保健衛生所、普及所と農場管理について話し合う様子



GAPの帳票類作成の様子

## 「田んぼの学校」閉校式・収穫祭を行いました！

令和3年2月25日（木）、当事務所管内で「田んぼの学校」に取り組んでいる福島市立余目小学校において、「田んぼの学校」の閉校式と収穫祭が実施されました。

閉校式では、農作業の指導をいただいた田んぼの学校の栃窪三男学校長を始め、余目小学校の平久井敦校長、当事務所の飯沼隆宏所長の挨拶の後、栃窪氏から5年生の児童一人一人に修了証が授与されました。

また、児童達が熱心に取り組んだ「かべ新聞コンクール」の表彰も行いました。

引き続き行われた収穫祭では、児童たちが大事に育て稲刈りを行った米をおにぎりにして、関係者とともにいただきました。

児童達は、おにぎりをおかわりしたり、口に入りきらないくらいのおにぎりにしたりして、収穫の喜びを味わっていました。

今年度は、コロナ禍の影響で、例年通りの活動が難しかったのですが、バケツや花壇に稲を植えるなど、工夫を凝らした活動が出来ました。来年度も児童達が楽しく学べるよう、引き続きサポートをしていきます。

（農村整備部）



田んぼの学校長、栃窪氏の挨拶



児童達が収穫したお米（2升）



好きな具材でおにぎりを作る児童達



かべ新聞コンクールで  
努力賞を受賞した「余目お米新聞」

## 福島市農業後継者連絡協議会総会が開催されました！

令和3年3月12日（金）、福島市のJAふくしま未来矢野目モニタリングセンターにおいて、福島市農業後継者連絡協議会（以下、市連協）の総会が開催され、会員の代表10名が出席しました。

今年は新型コロナウイルス感染症の影響を考慮し、書面決議となりました。評決票提出者全員からの賛成を得て、議案は全て可決となりました。

今年度は、市連協が毎年行っている県内外での果実PR活動も実施できませんでしたが、「来年度こそPR活動を含めて市連協の活動を頑張りたい」と今後の活動に前向きな意見も挙がりました。

当事務所としましても、市連協が安心して活動を行えるように、引き続き支援を行っていきます。

（農業振興普及部）



総会の様子



新役員のあいさつ

## 福島市・川俣町農業士会総会が開催されました！

令和3年3月9日（火）、福島市の「サンライフ福島」において、福島市・川俣町農業士会「令和2年度通常総会」が開催され、会員等18名が出席しました。例年、総会と合わせて研修会を開催していましたが、新型コロナウイルス感染症の影響を鑑み、研修会は中止となりました。

退任者へ感謝状及び記念品が贈呈された後、総会では、今年度の事業実績及び収支決算報告、来年度の事業計画及び収支予算が承認され、次期役員が選出されました。

当事務所では、福島市・川俣町農業士会が安心して活動できるよう、引き続き支援を行っていきます。

（農業振興普及部）



退任者へ感謝状及び記念品贈呈



集合写真

（※撮影時のみマスクを外しています。）

## 「未来につながる持続可能な農業推進コンクール」で「はねだ桃園」が受賞しました！

令和3年3月12日（金）、農林水産省主催の「未来につながる持続可能な農業推進コンクール」令和2年度受賞者の発表があり、桑折町の「はねだ桃園」（代表 羽根田幸将氏）がGAP部門で東北農政局長賞を受賞しました。

本コンクールは、持続可能な農業の確立を目指し、経営や技術の改善に意欲的に取り組み、顕著な成果を上げている農業者や団体等を表彰する事業です。

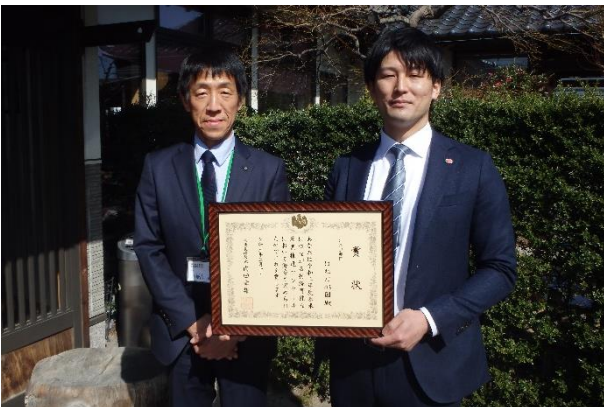
今回の受賞理由は、「はねだ桃園」が原発事故に伴う風評被害という逆境下において、「桑折町の美味しい桃を全国はもとより、世界の人々に届けたい」という強い思いから、平成28年に、伊達地域第三者認証GAP第1号となるGLOBALG.A.Pを取得するとともに、平成30年にはASIAGAPをはじめ、JGAPやFGAPを取得するなど、伊達地域における第三者認証GAPのパイオニアとなったことが、高く評価されました。

また、GAPの実践段階において、従業員の労働安全の担保及び作業工程の見直しにより労働時間の適正化や効率化、食品の安全性の消費者への説明態勢の強化を進めてきたことで、第三者認証GAP農産物に対する高い信頼性を得て、大手百貨店やタイへの輸出などの新たな販路開拓を実現した点も併せて評価されました。

さらに、市や県が主催する研修会やセミナーでの事例紹介者として、これまで取り組んできた豊富なGAP実践経験を通じて、GAPの普及に協力されるなど、伊達地域はもとより県内外農業者への第三者認証GAPの啓発と普及に大きく貢献されたことも受賞の決め手となりました。

当所としましても、「はねだ桃園」のさらなる発展を期待し、引き続きGAPの普及・拡大による産地の強化を進めていきます。

（伊達農業普及所）



はねだ桃園代表羽根田幸将さん(右)と  
伊達農業普及所長(左)



はねだ桃園の皆さん

## 「金谷川農作業受託組合」が設立されました！

令和3年3月16日（火）、福島市のJAふくしま未来松川営農センターにおいて、「金谷川農作業受託組合設立総会」が開催され、関係者を含め24名が出席しました。

金谷川地区では、昨年2月にアンケート調査を実施し、地域の農業者の「金谷川の農地を守るには、水稲の農作業を委託できる組織が必要である」との認識のもと、12月には、「金谷川地区農作業受託組織設立準備会」が立ち上がり、準備会役員を中心に話し合いが重ねられました。

設立総会では、来賓より祝辞が述べられ、組合規約、役員選出、事業計画などの議案が全て承認され、組合が発足しました。組合では、令和3年度水稲秋作業委託申込みを4月から開始する予定です。

今後、組合が地域農業の維持・発展を念頭に、水田農業を中心とした様々な取組を展開し、地域の担い手として発展することが期待されます。

当事務所では引き続き、担い手の確保・育成に向け、関係機関・団体と連携しながら支援を行っていきます。（農業振興普及部）



組合役員あいさつ



集合写真

（※撮影時のみマスクを外しています。）

## 県北地方防霜対策本部を設置しました！

令和3年3月18日（木）、福島県防霜対策本部設置に伴い、当事務所においても県北地方防霜対策本部を設置しました。5月31日（月）までの75日間にわたり、霜注意報等気象情報の収集や管内の市町村、JA等と連携して凍霜害防止について技術対策の支援を行います。

県北地方は、もも、なし、りんご、おうとう等果樹の一大産地であり、開花前から結実までの時期は凍霜害の危険性が高いため、防霜対策が重要となります。本年は2月以降の気温が高く、果樹の生育は平年よりも早いと予測されます。野菜は、育苗または定植の時期を迎え、収穫期にある露地野菜も凍霜害の対策が必要な時期となります。

今後も凍霜害が発生しやすい農作物の生育ステージが続きますので、引き続き対策を徹底しましょう。

（農業振興普及部）



対策本部の看板を設置

## 県北地方鳥獣被害対策セミナーを開催しました！

令和3年3月18日（木）、福島市のJAふくしま未来北信支店において、当事務所主催による県北地方鳥獣被害対策セミナーを開催し、25名が参加しました。

セミナーでは、福島大学農学群食農学類の望月翔太准教授から「総合的な鳥獣被害対策と持続可能な体制づくりについて」と題して講演が行われ、侵入防止対策、環境整備、捕獲を組み合わせた総合的な対策についての説明や、対策を実施する集落とそれを支援する関係機関等の役割と持続可能な体制について、優良事例を交えた解説がありました。

さらに、当事務所から、平成30年度から令和2年度にかけて設置した対策モデル集落のこれまでの取組について報告をしました。

参加者は、総合的な鳥獣被害対策について理解を深めるとともに、それらの対策を自らの集落等で実施、持続させるためのポイントを学んでいました。

当事務所としても地域ぐるみの鳥獣対策の実現に向けて引き続き支援を行っていきます。

（農業振興普及部）



講演を行う望月准教授



モデル集落の取組についての事例報告

## けんぼく6次化ミーティング会員募集中！

県北地方振興局と当事務所を事務局とするけんぼく6次化ミーティングでは、地域産業6次化に関する悩み・課題・疑問・相談を受け付け、加工・パッケージ支援、課題等に対して助言指導を行う専門家派遣、補助事業の紹介、申請資料作成のアドバイスなどを行っています。

「地域産業6次化」とは福島県の農林水産資源を基盤として、1次（農業）・2次（製造業）・3次（サービス業）の各産業が相互に連携しながら付加価値を向上・創造する取組の事です。

「けんぼく6次化ミーティング」は、地域産業6次化に取り組もうとする人を応援する会員制の組織です。会員になると、地域産業6次化に関するイベント情報や補助金等の情報をメールマガジンが受け取れます。

すでに地域産業6次化を始めている方や、これから始めたい方でまだ会員になっていない方はぜひ入会してください。

詳しくは当事務所のHPを御覧ください。

<https://www.pref.fukushima.lg.jp/sec/36210a/kikaku-6jika.html>

（企画部）

## ため池の決壊による災害の未然防止！～ため池廃止～

県では、決壊した場合、下流域の人家や重要な道路等に大きな被害を及ぼす可能性のあるため池を、防災重点農業用ため池に指定しています。防災重点農業用ため池の中には、営農に使用されなくなったものがあり、その場合には防災の観点から、堤体を開削するなど、池に水が溜まらないようにする工事を実施することになります。当事務所管内では、梁川町土地改良区において国庫補助事業を活用し、中ノ内ため池（伊達市）を廃止するための工事を行っています。

防災重点農業用ため池については、個々の状態や利用状況などを定期的に確認し、改修や廃止等、適切な対応をしていきます。

（農村整備部）



工事前の中ノ内ため池



堤体を掘削した様子



水が溜まらないよう管を埋設



## パイプラインの中をカメラ調査！機能診断を実施しました！

土地改良施設の長寿命化対策の一環として、今後の補修や更新について長期的な計画に基づく管理を行っていくため、各施設の点検や機能診断をおこなっています。

農業用水を送水するパイプラインは、土中に埋設してあるため、目視で管内部の状態を確認することが難しい施設です。油井川頭首工から山ノ入ダムに送水するパイプラインは、平成元年～5年に造成され、約30年が経過していることから、今回、特殊なカメラを用い、管内部の劣化状況を把握しました。漏水の原因となる管の亀裂の有無、つなぎ目の状態などを詳細に確認しました。

かんがい用水の安定供給のため、今回の調査等を基に作成する計画に基づき、適切な維持管理を行っていきます。

(農村整備部)



パイプラインの中を撮影するカメラ



施設管理用のマンホールから調査を実施



管内部の様子



山ノ入ダム

## 「第2回伊達地域担い手担当者会議」を開催しました！

令和3年3月18日（木）、今年度第2回目となる伊達地域担い手担当者会議を開催しました。

本会議は、現在、農業振興上最も重要な課題の一つである担い手の確保・育成について、県農地中間管理機構、伊達地域の各市町及び農業委員会事務局、伊達市農業振興公社、JAふくしま未来、伊達果実農協の各機関・団体が、それぞれの役割に応じて連携して対応するために、年2回開催しています。

会議の中では、近年特に増加している就農相談者への対応、新規参入による就農者の研修先確保などの課題に、今後も連携して取り組んでいくことを確認しました。さらに、担い手支援と緊密に関連する農地集積や人・農地プランの実質化の取組について、県農地中間管理機構の助言を得ながら、情報共有や意見交換を深めました。

中でも、人・農地プランの推進については、農地集積が難しい果樹産地であるにもかかわらず、地元の農業委員や農地利用最適化推進委員の協力で、集落内の話し合い・合意形成が加速化され、プラン公表につながる事例が出始めており、今後の推進方策の道標のひとつとして活用しながら取り組んでいくことが確認されました。

当所としましては、今年度就農した方々への個別支援に重点的に取り組むとともに研修先を確保することで、伊達地域の新たな担い手の確保・支援に努めていきます。

（伊達農業普及所）



コロナウィルス感染防止策を徹底した上での第2回伊達地域担い手担当者会議の様子



福島県の多彩な農林水産物を代表する「ふくしまイレブン」のキャラクターです。

**山菜の出荷制限について、確認をお願いします！**

県北地方では、下記のとおり出荷制限指示が出されています！！

再度確認のうえ、出荷制限品目を出荷しないよう、御協力をお願いします。

※出荷とは？

- 1 市場や直売所などへきのこ・山菜類を出すこと
- 2 インターネット等による通信販売  
フリマアプリ等を介した個人売買も出荷に該当します。出荷制限となっているきのこ・山菜類を出品しないよう十分ご注意ください。
- 3 無償で他人に譲渡すること

|                    |                                  |
|--------------------|----------------------------------|
| くさそてつ<br>(こごみ)     | 福島市 二本松市 伊達市 桑折町 国見町 川俣町 大玉村     |
| <b>たけのこ</b>        | 福島市 二本松市 伊達市 本宮市 桑折町 川俣町 大玉村     |
| ふきのとう<br>(野生もののみ)  | 福島市 伊達市 本宮市 桑折町 国見町 川俣町          |
| ぜんまい               | 二本松市 川俣町                         |
| ぜんまい<br>(野生もののみ)   | 大玉村                              |
| たらのめ<br>(野生もののみ)   | 福島市 二本松市 伊達市 本宮市 桑折町 川俣町 大玉村     |
| わらび                | 川俣町                              |
| わらび<br>(野生もののみ)    | 福島市 二本松市 伊達市                     |
| こしあぶら              | 福島市 二本松市 伊達市 本宮市 桑折町 国見町 川俣町 大玉村 |
| ふき<br>(野生もののみ)     | 桑折町                              |
| うわばみそう<br>(野生もののみ) | 国見町                              |

出荷が制限されている品目については、自主検査により「基準値（100Bq/kg）以下」であっても出荷や販売（無人販売所等への陳列含む）は行わないでください。また、飲食店や宿泊施設等での提供や加工用原材料としても使用しないでください。

なお、出荷制限に係る最新の情報は、次のURLで確認するか、「福島県 きのこ 山菜」で検索してください。

[参考URL: <https://www.pref.fukushima.lg.jp/sec/36055c/ringyo-monitoring.html>]

○お問い合わせ先: 森林林業部林業課 (024-521-2632)

編集・発行 福島県県北農林事務所 企画部 地域農林企画課

電話 024-521-2596 FAX 024-521-2850

ホームページ <https://www.pref.fukushima.lg.jp/sec/36210a/>

電子メール [kikaku.af01@pref.fukushima.lg.jp](mailto:kikaku.af01@pref.fukushima.lg.jp)

